

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	目黒区児童発達支援センター すくすくのびのび園			
○保護者評価実施期間	令和6年12月18日		～	令和7年1月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	137	(回答者数)	53
○従業者評価実施期間	令和6年12月18日		～	令和7年1月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数)	23
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 月 日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・保護者からは「現在の子どもの姿を職員と共有できている」という声を比較的多くいただいている。親子通所の利点を活かし、よりタイムリーに保護者の声を聞けるようにしていきたい。又、現在の姿の共有から、子どもの育ちの次のステップまで見通していけると良い。	・できるだけ保護者の声を聞く機会を作るようにしている。聞く際はまず「受け止める」ことを基本とし、話し易い雰囲気づくりに努めている。また、保護者から聞いた声や意見を職員間で共有できるよう努めている。心理相談員もフットワークを軽くして、聞く体制を整えるようにしている。	・現時点の子ども像の共有から更に一步踏み込み、次のステージを意識してみる。例えば次の個別支援計画の見直しの際、「子どもがこんな姿になったらいいなあ」という視点を持つようにする。その姿を保護者とも共有し、そのために今すべきことは何か?と考えることから始めると良いのではないかと。又、お子さん一人ひとりについてもちろんだが、クラス全体の見直し・方向性も改めて確認する必要がある。
2	・子どもにとっての活動空間の過ごし易さ、わかり易さ等環境整備面に対して、保護者からの肯定的な声が多い。安心して療育を受けられる環境であるよう、充実を図りたい。	子ども達に対して「わかり易い支援」を心がけている。目で見てわかり易い、聞いて理解し易い伝え方を、OT,PT,STと連携しながら工夫するようにしている。	年度替わり等でクラス担任や療育室が変わっても安心して過ごせる環境を提供できるようにする。教材やその他療育中に使用する掲示物等を園内で統一性を持たせる等、物理的な面で効果的な支援があれば、園全体で共有して活用できるようにする。
3	併用園など地域の関係機関との連携にも多くの時間を割いている。保護者向けの設問には項目がないので目に見える形には表れていないが、園訪問の依頼数からすると保護者のニーズは高いと思われる。今後の充実も期待されていると思われる。	併用園訪問前に保護者と話す機会を持ち、訪問する際のポイントを共有したうえで訪問し、事後にフィードバックしている。又、園に出向かなくても電話での情報交換・共有等を行い、子ども像の把握に努めている。	子どもが成長するうえでの併用園・当園・家庭それぞれの役割を確認しあい、子ども像を共有しながら連携を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・職員間では「お子さん毎に共通理解しながら個別支援計画を作成している」と認識している。一方で保護者からは「個別支援計画と日々の療育がしっかり結びついている実感が…」という声も聞かれる。「目標設定が曖昧」という声もあった。どのクラスも職員間で十分に話し合いを重ねているので、支援目標をいかに療育プログラムと関連付けながら保護者に伝えていくか、という点が弱いのだと思われる。	・その日毎の活動を充実させたい、という発想はあるが、支援の連続性の担保、という発想になりにくい。個々のお子さんに対する支援の見通しを明確に持ち、長期的な支援目標、それを達成するための中期的な目標、さらに短期的な目標を定め、そのために何をすべきか、という視点を職員が持つようにしたい。	・保護者と職員で共有した今の子ども像の姿を、実際の療育にどうやって落とし込んでいくのか、という取組が療育内容の充実につながる。共有した現在の姿を職員間で把握し、日々の活動の目的や意図との関連性や一貫性を保護者に伝えられるようにできると良い。
2	・児童発達支援事業所の果たすべき役割について、職場全体で理解を深める必要がある。「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援・連携」の4つの支援がどれも自分達に求められていることを意識する必要がある。	・当園は親子通所方式なので保護者と接する機会は多く、質問や相談を受けたり、日ごろ感じていることを話してもらったりすることも多い。その中で得た情報や、お子さん本人・保護者の抱える困りごとを、「本人・家族・移行・地域」の4つの分野の視点から整理し、課題解決につなげると良いのではないかと。	・「本人・家族・移行・地域」の4つの支援はどのような内容の支援を指すのか、を理解したうえで、自分たちの支援が4つの支援のどれに大別されるのかを整理し、「できていること」「できていないこと」「できそうなこと」とに分ける。それによって、事業所の役割を果たしているか、或いはまだ不足しているか、について考える機会とし、改善につなげていきたい。
3	・児童福祉法の改正に伴い、当園には地域における障害児支援の中核的役割を担うことが求められており、それについては職場内でも度々話題に上がっている。が、実際どうすればその役割を果たせるのか、事業所として整理し、職員間に浸透させていく流れが出来上がっていないのが弱みである。	・日々の支援の延長線上に、「児童発達支援センターの中核機能を発揮するために取り組むべき支援」があることが理想である。が、自分たちが取り組んでいることが中核機能とどうつながっていくのか、という視点が不足している。事業所として職員間でいかにこの点を共有し、実行していくか、を具体化させる必要がある。	・中核機能を発揮せねばならないのは自明なので、具体的な取り組みになるようにせねばならない。左記のように「職員間で共有して実行する」ためには、過去に「中核機能とは」というテーマで研修などしてきたが、今後はその機能を発揮するための具体的な考え方や方法を学んでいくことから取り組んでいきたい。